

【リニア中央新幹線岐阜県内の残土処理問題】

【岐阜県内の路線】は、55.1 km、この内、地上部約 6.5km、トンネル部約 48.6km です。

【岐阜県内の工事箇所】（赤色が工事中）（7ヶ所の非常口、5ヶ所の坑口、2ヶ所の橋梁、岐阜県駅、中部車両基地 ※ガイドウェイ工場）

【岐阜県内の発生土量】（7ヶ所の非常口と9ヶ所の坑口）から1280万m³ 沿線1都6県で一番多い残土量です。

【岐阜県内リニア残土置き場 予定地・決定地】 予定地を含めても1109万m³です。 171万m³以上の処理先が未定です。

【山口非常口】2017年10月着工、2025年3月7現在、本坑4.700mの2.670m掘削。当初予定では、2023年7月にトンネル工事終了でした。

残土は最初田瀬の碎石場跡地へ搬入していましたが、満杯となり、瀬戸残土処理場へ搬入し、その後は主に中部車両基地へ搬入しています。

【瀬戸非常口】は、2021年6月初旬から、斜坑の掘削が始まりました。同年10月27日に、死傷事故が発生しました。

残土は、瀬戸残土職場へ搬入していますが、ほぼ満杯となり、中部車両基地等へ搬入の準備が行われています。

2025年3月12日現在、本坑4.400mの内1.210mの掘削が終わっています。当初予定では、2023年度末トンネル工事終了でした。

【駒場非常口・駒場変電所】「駒場非常口」は2022年12月着工しました。ヤード整備中です。駒場非常口は将来駒場変電所の予定地です。

【中部車両基地】 中部総合車両基地(約50ヘクタール)は2021年6月に「先行盛土工事」が始まりました。

この基地は、当初予定では、残土を持ち込む計画ではありませんでしたが、5m嵩上げ(280万m³ 内10万m³の要対策土)する計画に変更されました。

また、車両基地隣接地に「要対策土(30万m³)」を含む、96万m³搬入する計画が発表され、岐阜県環境影響審査会で審議中です。

予定地の下流の「農業用ため池」を「沈砂調整池」の機能を追加させました。またこの土地は傾斜地の軟弱地盤で地下水位も高く、30mの高さに積み上げる計画で、崩落が心配され、有害物質が流れ出れば、稲作に大きな影響が出るとして、地域住民は反対の声を上げています。

【駒場トンネル名古屋方】 駒場トンネル(名古屋方)は、2021年7月に着工しました。2025年3月10日現在、220mの掘削です。

【長島トンネル・大井非常口】 長島トンネル品川方の大井非常口は、2022年11月に着工しました。ヤード整備中です。

【長島トンネル名古屋方】は、2021年4月に着工されました。ヤードは武並町藤で長島トンネルの名古屋方、4.4Kmを掘削します。非常口ではありません。

2025年3月17日現在、本坑1.960mの掘削が終わっています。残土は恵那市内の山岡町・三郷町へ搬入されています。

【日吉トンネル(武並工区・藤川高架橋)】は、2022年11月着工し、ヤード整備中です。

日吉トンネルの品川方の約3.7Kmと藤川高架橋550mの工事を行います。「長島トンネル・名古屋方ヤード」と隣接します。

【南垣外非常口】2016年10月に着工しました。トンネル掘削は、大湫地区の手前まで来ています。1昨年12月、昨年2月と5月に、湧水が発生しましたが、JR東海は公表せず、5月になって初めて公表し、大きな問題となっています。5月から工事を中断し湧水を止めるための薬液注入などを行っていますが、湧水は止まらず、更に地盤沈下が確認され、家屋調査や地質確認のボーリング調査が行われています。

残土はベルトコンベアーで2km先へ搬入されています。 当初予定では、2020年度末トンネル工事終了でした。

【美佐野工区】は、2021年3月に着工し、ヤード整備中です。日吉トンネル・美佐野トンネル掘削工事です。

御嵩町の残土処分場問題は、2023年度リニア残土フォーラム6回開催しましたが結論は出ず、町長が変わってから残土審議会が3回開催されました。要対策土は受け入れず、健全度についてはJR東海と協議中です。未だ130万m³の残土の行き先は、決定していません。

【大森非常口】は、2019年1月に着工し、2020年秋ころから斜坑掘削工事が始まりました。残土は民間事業地へ搬入されています。

【大針非常口】は、2020年1月に始まり、2022年7月に斜坑の掘削工事が始まりました。残土は民間事業地へベルトコンベアーで搬入されています。

2025年4月24日 岐阜事務局 原